

令和2年8月17日

地球規模保健課題解決推進のための研究事業
日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募に係る
事後評価コメント

研究開発課題名	Gnidimacrin and its derivatives against HIV-1 latency
研究開発機関名	東邦大学
研究開発代表者名	李 巍

指摘事項

- 評価できる点
多くの種類の潜伏 HIV-1 再活性化剤 **gnidimacrin(GM)**化学誘導体及び化学合成に成功したことは、今後の潜伏 HIV 再活性化剤の開発創製に期待できる成果として評価できる。
- 疑問点、改善すべき点
論文化や薬剤の構造特許出願等、今後の創薬に向けて活性評価や化合物の安定供給に関する研究の継続が望まれる。

以上